

3. 革新的配分メカニズムの有効性評価

政府が高等教育の資金配分方法を改革しようとし、また現に改革を実施している根本的な理由は、公共政策の目的を推し進めることにある。この章の議論（補遺 2 の 2 つの表にまとめられている）は、近年の国際的な経験から、どの配分メカニズムが公共政策のどの重要目的に対してより効果的となっているかを描き出そうとしている。高等教育に関連して世界中の国々が達成しようとしている政策目的は、基本的に 3 つある。

- ・ **高等教育に対するアクセスと公平性の向上（次の事項により進展を確認する）：**
 - * 中等教育卒業後、高等教育機関に入学する伝統的年齢層の学生の進学率向上。
 - * 生涯学習機会の量的・質的拡大。特に年齢層の高い学生や遠隔教育を含めた非伝統的な学生層に対するもの。
 - * 家計所得の高低による学生進学率の格差縮小。性別や人種・民族グループといった、平等性に関するその他の側面も同様。
 - * 高等教育の提供および支援に関する私立部門の投資と活動の拡大。

- ・ **高等教育制度の外的効率性の向上（次の事項の改善により達成される）：**
 - * 提供される教育の質（学生が何を学ぶか、教師がどれだけ効果的に教えるかといったことの計測を含めて、様々な方法で評価される）。
 - * 社会的ニーズや労働市場のニーズに見合った教育課程を提供し、卒業生の輩出を行いうる合目的性。
 - * 重要な国家的ニーズおよび地域ニーズに対する、基礎研究および応用研究プログラムの合目的性。

- ・ **高等教育制度の内部効率性および持続可能性の向上（次の事項により達成される）：**
 - * 様々なファンディング施策による、特に学生 1 人あたりコスト（または支出）の低減、もしくは増加スピードの鈍化。
 - * 高等教育機関間および機関内における資源配分の改善（制度全体がより効率的かつ持続可能なものとなるため）。
 - * 再履修の減少と学位修了率の向上。